第70期 中間報告書

平成28年4月1日～平成28年9月30日

茨城工場　新ウインナープラント

おいしさ、ふれあい。
プリマハム

証券コード:2281

株主の皆さまへ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、平成28年4月1日から平成28年9月30日までの当社グループの経営成績につきましてご報告申し上げます。
今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

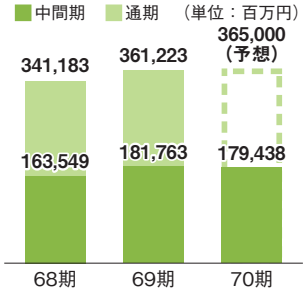
平成28年12月

代表取締役社長　松井鉄也

連結財務ハイライト

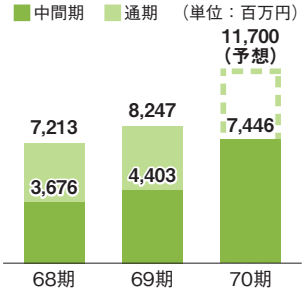
■売上高

1,794億円
（前年同期比1.3%減）



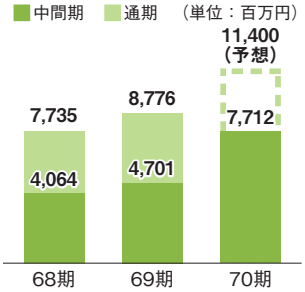
■営業利益

74億円
（前年同期比69.1%増）



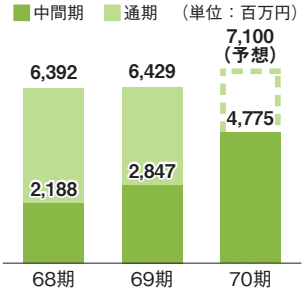
■経常利益

77億円
（前年同期比64.0%増）



■親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益

47億円
（前年同期比67.7%増）



※当社の一部の連結子会社は従来、原材料の仕入先である協同組合から受け取る「事業分量配当金」を営業外収益として処理しておりましたが、第1四半期連結会計期間から仕入控除項目として売上原価に含めて処理する方法に変更となりました。この結果、前期の営業利益については遡及処理後の数値を記載しております。
※予想数値は、11月2日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境などの変動により、予想とは異なることがあることをご承知おきください。

上半期営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、継続する円高から輸出企業を中心に先行きの不透明感が拡大し、企業の景況感も悪化する厳しい状況が続いています。また、世界的な景気減速や政治不安からの世界経済の減速も企業収益を圧迫する不安要素となり、企業も余剰資金をリスクの伴う設備投資よりも、企業統治の面から自社株買い等に振り分ける傾向が高まり、景況感も横ばいが続き、個人消費にも影響を与える状況が続いています。

当業界におきましては、円高により輸入原材料や輸入商品等の調達に関しては安定しているものの、景気動向から消費者の低価格志向が再燃し、特売等の安売り商品等に消費者の購入が集中する傾向が強くなるとともに、企業間の競争も激化し、事業環境は厳しいものとなりました。

このような状況のなか、当社グループは「健康で豊かな食生活を創造するために安全・安心な商品を提供し、社会と食文化の発展に貢献していく」という基本的な考えのもと、中期経営計画の目標の達成に向けて、「事業領域の拡大と収益基盤の更なる強化」と「成長市場に向けた事業創造とグローバル展開」を基本方針と位置づけ、諸施策を講じてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は1,794億38百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益は74億46百万円（前年同期比69.1%増）、経常利益は77億12百万円（前年同期比64.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は47億75百万円（前年同期比67.7%増）となりました。

セグメント概況

●加工食品事業本部

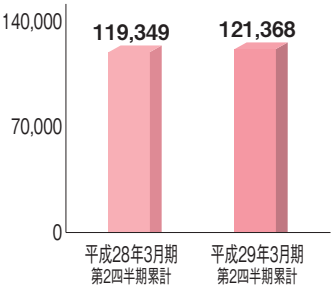
〈ハム・ソーセージ部門〉

引き続き「香薫あらびきポークウインナー」をはじめとする重点商品を中心とした販売活動や東京ディズニーランド®貸切プレシャスナイトへのご招待キャンペーンやプライベートキャンペーンなどの「おいしさ、ふれあい。キャンペーン」や「ハッピーハロウィーンキャンペーン」などの数々のキャンペーンを展開し、販売数量拡大に大きく貢献しました。生産面においては、改革・改善を継続実施し、人時生産性向上やユーティリティーコスト削減などを推進し、コスト競争力も着実に高めてまいりました。

また、本年6月より茨城工場新ウインナープラントが稼動を開始し、秋の最需要期に向けての生産体制を整えるとともに、環境にも配慮した体制を構築してまいりました。

ハム・ソーセージ部門においては、売上高、販売数量はコンシューマー商品ではともに前期を上回りシェアを伸ばすことができましたが、業務用商品の不振により、全体としては前期を下回る結果となりました。

加工食品事業本部(売上高) (単位：百万円)



〈加工食品部門〉

コンシューマー商品では「サラダチキン」や「スパイシースティック」、「絶品点心春巻」などの商品を拡販するとともに、コンビニエンスストアを中心にPB商品についても積極的販売に取り組みました。

コンビニエンスストア向けのベンダー事業については、得意先様の出店増を背景に売上が拡大するとともに、利益面においても原材料価格の安定により、収益が拡大しました。

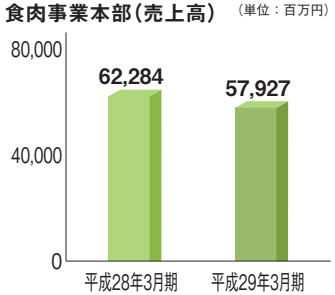
結果、加工食品事業本部における売上高は1,213億68百万円(前年同期比1.7%増)となり、セグメント利益は74億21百万円(前年同期比53.4%増)となりました。

●食肉事業本部

国際的な仕入れ競争激化により、食肉の仕入れ環境は極めて厳しいものとなりましたが、「オレガノビーフ」や「ハーブ三元豚」などのオリジナルブランド商品の拡販や得意先の新規・深耕開拓を積極的に行い、食肉売上高の拡大に努めました。また、昨年に評価損を発生させた輸入冷凍牛肉の在庫消化も進み、収益面においては大きく改善し、販売数量も昨年を捉えることができましたが、販売単価の下落から、売上は昨年を大きく下回る厳しい状況となりました。

結果、食肉事業本部における売上高は、579億27百万円(前年同期比7.0%減)となり、セグメント損失は65百万円(前年同期は4億81百万円のセグメント損失)となりました。

食肉事業本部(売上高) (単位：百万円)



総合的な営業力・開発力の強化により、収益の基盤となる売上の質の向上と拡大を具現化し、
お客様に必要とされる**「なくてはならない会社」**を目指す。
将来的に継続した発展をなし得るために、積極的な設備投資による強固な体制を構築し、
目標に掲げるローリングプランを達成する。

基本方針

コーポレートガバナンス強化と CSR推進による継続的な経営革新

- 品質保証体制の強化継続
- 人材育成・法令順守・環境保全・内部統制

既存2大事業の領域拡大及び収益基盤の更なる強化

- コスト構造改革
- 営業力強化
- 消費者視点での商品政策（安心・安全・美味しい・健康）

成長市場に向けた事業創造とグローバル展開

- 伊藤忠商事㈱とのコラボレーションを主体とした国内外事業展開
- 革新的生産技術開発
- グループ会社との連結経営強化

連結損益　中期経営計画（ローリングプラン）

（億円）

	2015年度（実績）	2016年度 当初計画	2016年度 修正予想	2017年度（計画）	2018年度（計画）
売上高	3,612	3,810	3,650	4,010	4,120
営業利益	79	90	117	99	117
経常利益	87	86	114	97	117
当期純利益	64	54	71	60	75

（注1）実績値は1億円未満切り捨て
（注2）当期純利益は、2015年度より「親会社株主に帰属する当期純利益」

連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目 ＼ 期別	前期末 平成28年3月31日現在	当第2四半期末 平成28年9月30日現在
資産の部		
流動資産	69,241	69,030
現金及び預金	6,952	11,636
受取手形及び売掛金	35,685	35,938
商品及び製品	20,033	15,010
仕掛品	712	689
原材料及び貯蔵品	1,651	1,609
繰延税金資産	1,223	1,220
その他	2,987	2,930
貸倒引当金	△5	△5
固定資産	84,270	88,013
有形固定資産	66,231	69,481
建物及び構築物（純額）	24,921	29,004
土地	19,246	19,204
その他（純額）	22,062	21,272
無形固定資産	1,282	1,398
投資その他の資産	16,756	17,134
投資有価証券	5,885	6,129
退職給付に係る資産	8,413	8,596
その他	2,462	2,414
貸倒引当金	△4	△5
資産合計	153,511	157,043

科目 ＼ 期別	前期末 平成28年3月31日現在	当第2四半期末 平成28年9月30日現在
負債の部		
流動負債	58,669	55,616
支払手形及び買掛金	37,545	37,292
短期借入金	3,780	172
1年内返済予定の長期借入金	2,196	2,329
未払法人税等	1,665	2,507
賞与引当金	1,333	1,487
その他	12,147	11,827
固定負債	24,812	27,072
長期借入金	13,041	15,963
退職給付に係る負債	4,182	4,251
資産除去債務	267	269
その他	7,320	6,587
負債合計	83,481	82,689
純資産の部		
株主資本	57,276	61,584
資本金	7,908	7,908
資本剰余金	8,509	8,548
利益剰余金	40,997	45,268
自己株式	△139	△141
その他の包括利益累計額	5,881	5,524
その他有価証券評価差額金	1,632	1,707
繰延ヘッジ損益	△18	△44
土地再評価差額金	2,485	2,474
為替換算調整勘定	132	△172
退職給付に係る調整累計額	1,649	1,559
非支配株主持分	6,871	7,245
純資産合計	70,030	74,354
負債純資産合計	153,511	157,043

連結損益計算書

（単位：百万円）

科目＼期別	前第2四半期 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	当第2四半期 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日
売上高	181,763	179,438
売上原価	156,405	150,164
売上総利益	25,358	29,274
販売費及び一般管理費	20,955	21,827
営業利益	4,403	7,446
営業外収益	505	421
営業外費用	206	155
経常利益	4,701	7,712
特別利益	633	106
特別損失	328	94
税金等調整前四半期純利益	5,007	7,724
法人税等	2,005	2,381
四半期純利益	3,001	5,343
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	154	567
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,847	4,775

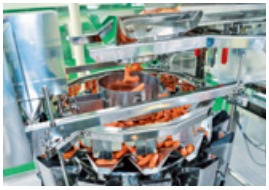
連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目＼期別	前第2四半期 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	当第2四半期 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,120	13,184
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,491	△7,072
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,279	△1,355
現金及び現金同等物に係る換算差額	47	△72
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,955	4,683
現金及び現金同等物の期首残高	4,988	6,927
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,943	11,611

業容の拡大

茨城工場 新ウインナープラント



2016年5月に茨城工場新ウインナープラントが完成、同年10月より本格稼働をしております。新プラントの建設にあたって目標としたのは、「さらなる生産効率の向上」と「工場の省エネルギー化」であります。生産工程の高速化、自動化、連続・直線ライン化で生産能力が35％アップするとともに、設備が除湿システム、冷凍機システム、給油システム等環境に配慮した仕様となっており、従来の使用電力と比較し、20％の削減を見込んでおります。

ステークホルダーの皆様へ

販売促進活動

東京ディズニーランド® 貸切イベントご招待

「春のおいしさ、ふれあい。キャンペーン」で当選されたお客様を東京ディズニーランド®夜間貸切イベント「プレシャスナイト」にご招待いたしました。

今後も東京ディズニーランド®、東京ディズニーシー®のオフィシャルスポンサーであることを活かし、様々なキャンペーンを展開してまいります。

TVコマーシャルの放映

女の子のシェフが、香薫バレエ団の3匹の子豚といっしょに香薫あらびきポークウインナーをお料理しているテレビコマーシャルを放映しています。テレビコマーシャルを通じて、香薫あらびきポークウインナーの販売数量拡大に繋げてまいります。

LINEスタンプの配信

本年8月30日から9月26日まで当社のオリジナルキャラクター「ソップリン®」のLINEスタンプ第三弾を配信いたしました。これは当社のLINE公式アカウントと「友だち」になると無料でダウンロードできるもので、友だち数が890万人を超え好評でした。

今後もLINEを通じて、当社の認知度アップに努めてまいります。

株主優待

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの方々に長期的に当社の株式を保有していただき、当社の事業に対するご理解をより深めていただくことを目的に、株主優待制度を導入しております。本年も自社製品3,000円相当を11月下旬に発送させて頂きました。

イメージ

対象となる株主様	毎年9月30日現在の株主名簿に記載された、1単元(1,000株)以上保有されている株主様

中間配当

当社は、昨年より、株主の皆様への利益還元の機会を充実させることを目的に9月30日を基準日とする中間配当を実施しております。

当期の中間配当は1株当たり2円となっております。

【効力発生日は2016年12月1日】

株式情報（単体）

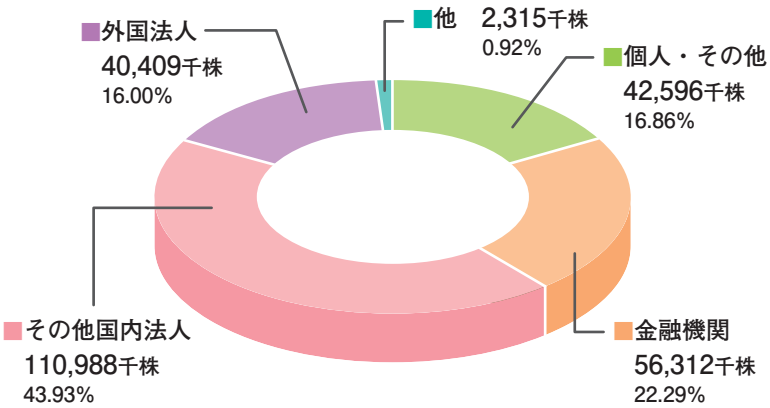
（平成28年9月30日現在）

■ 発行可能株式総数　**350,000,000株**

■ 発行済株式総数　**252,621,998株**
（自己株式876,030株）

■ 株主数　**23,125名**

●所有者別株式分布状況



●大株主

大　株　主　名	持株数（千株）	持株比率（%）
伊藤忠商事株式会社＊	99,442	39.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	16,999	6.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	7,541	2.99
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	4,802	1.90
三井住友信託銀行株式会社	4,613	1.83
学校法人竹岸学園	4,541	1.80
株式会社サンショク	4,000	1.58
株式会社みずほ銀行	3,832	1.52
農林中央金庫	3,565	1.41
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	3,483	1.38

（注）＊印の株主は、発行済株式（自己株式を除く。）の総数の10分の1以上の株式を保有しています。

会社概要

（平成28年9月30日現在）

■会社概要

商号	プリマハム株式会社 Prima Meat Packers, Ltd.
本社	〒140-8529 東京都品川区東品川4丁目12番2号 TEL：03-6386-1800
代表者	代表取締役社長　松井 鉄也
事業内容	ハム・ソーセージ、食肉および 加工食品の製造販売
創業	昭和6（1931）年9月1日
設立	昭和23（1948）年7月9日
資本金	79億8百万円
従業員数	1,980名
支店等	東北支店（宮城）・東京支店・中部支店（愛知）・ 関西支店（大阪）・中四国支店（広島）・九州支店（福岡）
工場	北海道工場・茨城工場・三重工場・鹿児島工場
物流センター	関東物流センター（茨城）・三重物流センター・ 福岡物流センター　他3ヶ所
研究機関	基礎研究所（茨城）・生産技術開発部（茨城）
グループ会社	35社

■役員

代表取締役社長	松井鉄也
常務取締役	千葉尚登
常務取締役	矢野雅彦
常務取締役	内山高弘
取締役	髙田和之
取締役	佐々木久志
取締役	新村融一
取締役（社外）	山下丈
取締役（社外）	野尻恭
常勤監査役（社外）	奥平博之
常勤監査役（社外）	佐藤功一
監査役（社外）	京田誠

株主メモ

■ **事業年度**
4月1日から翌年の3月31日まで

■ **定時株主総会**
毎年6月に開催いたします。

■ **基準日**

定時株主総会の議決権	3月31日
期末配当	3月31日
中間配当	9月30日

その他、必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

■ **単元株式数**
1,000株

■ **株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

■ **お問い合わせ先・郵便物送付先**
〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話　0120−782−031（フリーダイヤル）

・**住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
電話　0120−782−031（フリーダイヤル）

・**未払配当金の支払について**
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
電話　0120−782−031（フリーダイヤル）

■ **公告の方法**
電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

TZ-100

PFR-100

プリマハム株式会社
東京都品川区東品川4丁目12番2号　品川シーサイドウエストタワー　〒140-8529
電話　03-6386-1800
http://www.primaham.co.jp/

チャレンジ25

VEGETABLE OIL INK